

令和3年度 学力向上指導改善プラン

三田市立あかしあ台小学校長 森本 真由美

学校教育目標		こころ豊かに たくましく生きる 子どもの育成				
推進主体		管理職と主幹教諭・教務主任・研究主任・生徒指導担当・学校評価担当を中心に校内学力向上委員会を設置				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○6年生の2学期末の知識・技能に関する問題で、平均正答率8割以上を達成した。		年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
		算数 数学	○各単元のテストでは、算数の知識理解については8割以上の正解率ではできていた。 ●思考力を問う問題については正解率が下がっていた。式・言葉・図などを使い、子どもどうしが説明し合う活動が減ったことが影響したと考えられる。			
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	●単元テスト、まとめテストにおいて、全員の正答率が8割以上にはならなかった。		年度末評価	評価	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	●従来のような形式で対話することが難しく、その方法の模索途中である。				
慣学・力 向上 活 上 習 に 慣 係 等 の 学 状 習 況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○高学年において、ひとり学びの仕方が定着しつつある。要点をおさえたり、短時間で رفتりすることができるようになることを目指す。		年度末評価	評価	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	●「学校評価アンケート」において、「宿題を必ずする」という児童は9割を超えている。しかし、自学については、どう進めたらいいのかわからないという児童が多い。児童が主体的に学習を進めていくために、「ひとり学びの手引き」の活用や他の児童の自学の紹介などを行い、学習の仕方を獲得させていく必要がある。				
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	○学級会の進行の方法について校内で統一したとりくみを進めることで、話し合いから実践活動までの一連の活動の流れが定着してきた。また、学級活動ノートを活用し、活動を見直し振り返ることを通して、提案理由でめざしたことや選択した活動の方法と実践活動の成果を関係づけて検討することができるようになってきた。 ●子どもたちが目的をもって活動ができるようになるとともに、より深い話し合いが求められるようになってきたが、その際、自分の考えやその根拠となる経験や人に伝えるための言葉の力が必要になることがわかった。国語科をはじめ他教科で身につけた資質・能力の活用方法を軸に研究を進める必要がある。		年度末評価	評価	
	校内研修の状況	○特別支援教育に関する研修をはじめ、生活指導、特別活動の研修を、本校の課題に応じて設定し、実施している。				
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	●登校しぶりの児童が2学期後半から増えてきた。保護者と継続的に連絡を取るとともに、ケース会議を開いて共通理解をし、指導の方針を協議した。 ○SCも加えたたくさんの目で児童の指導について検討できた。特にSCの活用は増え問題解決につながった。SCやSSWの活用をさらに推進していきたい。		年度末評価	評価	
	小・中における教科連携等の状況	○次年度入学してくる児童について、各園への訪問を行った。配慮が必要な児童については教育支援委員会でも共通理解を進めた。 ○中学校との連携については、例年は、中学校区で年間3回授業参観と交流、協議を行っている。中学校の先生による出前授業も3月に行い、円滑な連携に向けて小学校・中学校両方からアプローチを進めることができた。				
4月		2～3月				
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価		
○知識・技能に関する力の獲得を図る。		○全国学力・学習状況調査の知識・技能に関する問題で、平均正答率8割以上。	・主に書くこと領域に関する学習の評価規準と支援の方法を共有し、知識・技能の獲得を図る			
○基礎・基本の定着を図り、学びに向かう力を高める。		○学校評価アンケートの児童アンケート「勉強がわかる」の項目で、肯定的な回答が8割以上。	・式・言葉・図などを使い説明する活動を積み重ねる。 ・児童の興味関心が高まる導入を授業に取り入れ、難しい問題にもチャレンジする意欲や、算数自体に対する関心を高め、タブレットを活用して、児童の理解を深める。 ・相手へのわかりやすい説明が明確に行うことができている児童もいるので、「おたずね」を大切にし互いにわかりやすい説明を求め合うような学習を行う。			
○個の学びを中心にした細やかな支援を行うための授業改善を図る必要がある。		○単元テストやまとめのテストにおいて、全員が正答率8割以上。	・引き継ぎ事項を根拠にし、より細やかな支援を行う。 ・自分の考えをノートに書くことに加え、情報機器も生かしながら対話し、思考を促す授業を行う。			
○学力と生活習慣の関連について啓発し、家庭とさらに連携し、発達段階に応じた生活習慣と学習習慣の確立を図る。		○学校評価アンケートの児童アンケート「進んで学習に取り組もうとしている」の項目で、肯定的な回答が9割以上。	・「ひとり学びの手引き」を活用し、子どもたちが主体的に学習を進める方法を浸透させ、高学年では予習や復習を習慣化させるように指導する。			
○学級会にいたるまでの流れと進め方を共有する。 ○各教科・領域と関係つけた活動を研究する。 ○各教科で身につけた資質・能力の活用を研究する。		○学級活動ノートに自己の活動を数値で振り返ることのできる欄を設けて、肯定的な回答の推移をみる。 ○全学年で肯定的な回答が増加することを目標とする。	・各学級で児童主体の話し合い活動を年間8回を目安に実施する。 ・学級活動ノートを継続的に記載し、見直しをもって活動できるようにするとともに、因果関係を見いだせる振り返りをさせる。 ・話し合いのめあてに、各教科での学びをとり入れた学級会を行う。 ・各教科、領域と関連つけた活動を積極的にとり入れる。			
○家庭・地域との連携を図り、基本的な生活習慣と家庭学習の充実に努める。		○学校評価アンケートの児童アンケート「自分には良いところがあると思う。」の項目で、肯定的な回答が8割以上	・スクールカウンセラーを活用し、教育相談や保護者向け研修会を実施する。 ・「さんだっ子がやきカリキュラム」を活かし、学校園所連絡会を開催する。 ・中学校区で学力向上改善プランを交流し、課題の共有化を図る。			
○生徒指導及び学力向上に向けた学校園所の連携を推進する。						